

市民センターの今後の取組についての意見

(令和6年度豊野市民センター地域づくり推進会議第3回議事録より)

- 今後は、高齢者に限らず誰でも参加できる居場所を整備し、そこで、こども達に昔遊びを教えたり、学習支援などをおこなう取組みを検討していただきたい。こういったことで、一層の世代間交流が進むことが可能となる。
- 仕事をしている女性が化粧品店へ行かなくても、学習スペースなどを使って、女性特有のメイクアップの方法などを学べる場所として、活用できるような検討もしていただきたい。
- 学校へ行けない児童・生徒が、市民センターの学習スペースを利用できればより効果的であると考えます。今日は社会科、明日は科学などと決めて取組み、これに地域の方々も問題集などで勉強を教えることなども検討していただきたい。
- 児童・生徒には、落ち着いて勉強できる環境が必要であり、手頃な人気書籍に勉強できるスペースが加わった図書館など（図書室・図書コーナー）を整備することは、図書館のない豊野地区にとっては、有益である。
- 地域の方々と触れ合うことができる場所などの整備が進むことは、さらに良いことであるので、是非、検討してもらいたい。
- 地区内で4名の自殺者が確認された。4世帯のうち3世帯が空き家となった。国などの機関で電話相談などがあるが、実際はなかなか電話をできないものである。身近な地域に相談体制があれば良いと感じている。自殺、空き家ともに、何らかの対策が必要。

- 地域の高齢者や時間に余裕がある方などが、センター内の学習スペースや遊び場において、こどもの勉強のお手伝いなどをするような取組みを進めてもらいたい。
- 中学校では指導者不足などで部活動ができない状況が生じてきており、一部では学校外のクラブなどで活動している生徒も見受けられる。今後は、こども達のスポーツ活動が、その地域内で可能となるような場所の整備や指導者の体制などの検討を進める必要がある。
- 豊野地区には、図書館、本屋さんがない状況である。豊野市民センター2階の図書コーナーの蔵書をこども向けに充実させるなどの検討を進めてもらいたい。
- 老人ホーム等の施設は、以前より増えているが、費用が高い。医療関係者から豊野地域の医療体制が脆弱であると聞き心配している。搬送先が決まるまで30分かかったり、搬送先も県境をこえる場合もある。安心して住めるまちにしてもらいたい。
- 地域における防災・防犯対策として、自分の生命・財産は自分で守ることが基本であるが、今後は、実際の災害が起きた場合の避難所としての市民センターの運営などの検討を進めていく必要がある。
- 自治会加入者数の減少や災害関連死への対策として、地域における活発なコミュニケーションが必要になるが、これには、地区センターを活用したイベントなどの実施が効果的だと考える。内容的には、こどもが喜んで参加できるもので、これに親もいっしょに過ごせるようなものが好ましい。